

合気道競技の投技における「崩し」の方法：隅落と引落を中心に

佐藤忠之¹⁾、川上泰雄²⁾、志々田文明²⁾

¹⁾ 早稲田大学

²⁾ 早稲田大学スポーツ科学学術院

キーワード： 富木謙治、嘉納治五郎、柔道、重心、小指の横

抄 録

本研究は、合気道乱取り競技の投げ技のなかで、浮技の部門に属する隅落と引落の「崩し」の理論と方法について新たな提言を試みたものである。これらの技は柔道の投げ技の部門に見られ、足の払いを伴わないので実際の使用は難しい。合気道競技では腕をつかんだ状態で施すため、その有効な使用は一層困難といえる。結論は以下のように総括される。

1. 隅落。取は受の伸ばした右腕を、両手で内側から順手捕りでつかみ、受のやや左斜め前方に右足左足と継いで、いくぶん右半身の体勢で移動。取は受の腕、特に手首寄りの前腕部を、左手を下、右手を上にしてつかみつつ、左手は内側にやや捻り、右手をやや受の右前に押し上げ気味に操作。この動作中に取は、右足を右側方へ移動し次いで左足を、体をやや左に開くように右足後方に移動。取はつかんでいる両手の位置は変えないまま右手を中心に親指を内に回すように捻って、受の左足前方へ軽く振り出す。取は左足を受の右足小指外側に、右足を左足の後方へと移して、振り出した腕を振り戻しつつ取の左足寄りに両手を移動。取はこの体勢をさらに強めて左足を受の右後方へと進めて技を掛ける。
2. 引落。取は右構えのまま重心を落とし、体をやや右に捻るようにしながら左足を右足横に近づけ、左手掌を上に向けた形で受の右手首下からすくい上げるようにつかむ。取は左足をやや左斜め後方隅の方向へ退き、次いで右足も継ぎ足にてさがる。取は受の左手首をつかんでいる左手を内に捻るように下へ、そして左へと弧を描くように振り、それに合わせて右掌を受の右肘内側に下から当てて、受の右肘がやや曲がる程度にすくい上げる。取はこの状態から振り上げた両手を、右掌を受の肘へかぶせながら取の左腰あたりに一気に振り下ろす。
3. 両者を共通するポイントは以下4点になる。相手に悟られないように、片足に体重が集まるように誘導すること。相手の肘の位置を、相手の重心を安定させる基底面の外側へはずすこと。足の小指外側上方に重心を集めること。相手を崩すように導くことと、その際の自分の体勢を作ることの一一致。

スポーツ科学研究, 3, 69-77, 2006 年, 受付日: 2006 年 8 月 18 日, 受理日: 2006 年 9 月 8 日

連絡先: 志々田文明 〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15 早稲田大学スポーツ科学学術院

shishida@waseda.jp